

## 複式第5・6学年 国語科学習指導案

Ⅲ組 5年 男子4名 女子4名  
6年 男子4名 女子4名 計16名  
指導者 福留忠洋

- 1 単元 **すぐれた表現に着目して、物語の魅力を伝え合おう** (教材「大造じいさんとガン」5年光村上)  
**自分の感じたことを、朗読で表現しよう** (教材「やまなし」6年光村上)

### 2 単元について

#### (1) 単元の位置とねらい

(第5学年)

この期の子どもたちは、これまでの「読んで考えたことを話し合おう」の学習で、人物の行動や気持ちを叙述に即して読み取り、自分の考えをまとめる能力を身に付けている。

そこで、本単元では、登場人物の関係や情景描写に着目して、優れた叙述について自分なりの考えをまとめる活動を通して、印象付けられた叙述を基に物語のおもしろさをまとめたり、紹介しようとしたりする力を高めたいと考え、本単元を設定した。

この学習は、表現や物語の構成から作品の特色をとらえ、自分の考えをもとめて話し合う「特色をとらえながら読み、物語をめぐって話し合おう」の学習へと発展するものである。

#### (2) 指導の基本的な立場

教材「大造じいさんとガン」は、大造じいさんの心情が、ガンの頭領である残雪との関わりの中で、次第に変化していく様子を、巧みな情景描写を用いながら表現している動物文学である。また、大造じいさんが、ガンの頭領である残雪の行動から心情を変化させていく姿は、他者を理解しようとする具体的に行動できるこの期の子どもたちに適した教材である。

そこで、本単元では、物語の魅力を紹介することを、単元を貫く言語活動として設定する。そして、教材「大造じいさんとガン」を、登場人物の心情の変化や情景描写に着目させ、その魅力が伝わる叙述を明らかにしながら読み進めさせる。

具体的には、まず、文学の紹介についての課題意識をもたせるために、試し作りを行う活動を設定し、自分の好きな椋鳩十の物語を紹介する文章を書かせ、うまくいったこといかなかったことを友達同士で交流しながら整理させる。

次に、物語の魅力のまとめ方を学ばせるため

(第6学年)

この期の子どもたちは、これまでの「すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう」で、登場人物の関係や情景描写を捉え、自分の考えをまとめる能力を身に付けている。

そこで、本単元では、表現の効果を基に物語の全体像を具体的に想像しながら、作品の特徴や作者の思いを捉える活動を通して、自分なりの解釈を基に朗読し、その違いを伝え合おうとする力を高めたいと考え、本単元を設定した。

この学習は、登場人物や、登場人物相互の関係から生き方を学ぶ単元「登場人物の関係をとりえ、人物の生き方について話し合おう」へと発展するものである。

教材「やまなし」は、「生と死」「光と影」「奪うものと与えるもの」といった観念が、五月と十二月で対比的に表されている文学的文章である。また、作者の信念や生きることに対する思いが表れている本教材は、賢治独特の比喩や色彩等の表現の工夫がちりばめられており、抽象的な思考の発達が見られるこの時期の子どもたちが学ぶのに適した教材である。

そこで、本単元では、教材の特徴や作者の思いを捉えさえるために、比喩・色彩・擬声語・擬態語などの形式に着目させ、情景を想像させたり、宮沢賢治に関する資料を参考に賢治の人物像を捉えさせたりしながら読み進めさせる。

具体的には、まず、教材に対する意欲付けを図るために、試しの朗読をさせ、読む場面や読み方などの朗読の観点に基づいてうまく朗読できたこととできなかったことを話し合わせることで、朗読するためには優れた表現を味わい内容を解釈する必要があることを確認させる。

次に、宮沢賢治の生き方や考え方を捉えさせ



ウ 学習を振り返り今後の読みへとつなげるために、試し作りの文章と紹介する文章とを比べながら、自分の学習の成果に気付かせ、身に付けた国語の能力を振り返らせる。

エ 間接指導時には、ガイド学習を行っていく。そのため、直接指導を行う際には、子どもたちが「学び方」を意識できるようにする。また、授業の終末では、学びの過程を振り返らせ、学習内容と「学び方」の発揮を関係付けて価値付ける。

ウ 学習を振り返り今後の読みへとつなげるために、朗読を通じて、互いの解釈を交流しながら、自分の学習の成果について気付かせ、身に付けた国語の能力を振り返らせる。

### 3 目 標

- (1) 情景描写や語感、言葉の使い方等の優れた表現に気付き、物語の魅力を伝えることができる。
- (2) 場面同士を比較したり、登場人物の相互関係や心情の変化を関係付けたりして、登場人物の心情を捉えることができる。
  - ・ 大造じいさんと残雪との関係を想像して、作者の優れた表現について自分の考えをまとめることができる。
- (3) 読書紹介を行うことに関心をもって、椋鳩十の文学を進んで読もうとすることができる。

- (1) 比喩・色彩・擬声語・擬態語等の優れた表現に気付き、その効果を考えながら朗読することができる。
- (2) 場面同士を比較したり、宮沢賢治の生き方・考え方と「やまなし」を関係付けたりして、作者の思いを捉えることができる。
  - ・ かにの親子の心情や谷川の様子を想像して、「やまなし」の世界観を読み取ることができる。
- (3) 宮沢賢治に関心をもち、自分なりの解釈を基に「やまなし」を朗読しようとするすることができる。

- (4) 同学年、異学年の交流を通して、自他の考えや考え方の相違点や共通点を意識しながら聞いたり、相手の考えや考え方の分からないところを問い返したりすることができる。

### 4 指導計画(第5学年8時間, 第6学年8時間)

学習課題・主な学習活動(第5学年)	学習課題・主な学習活動(第6学年)
1 「自分の選んだ物語」を紹介する文章を書き、交流し単元の目標を設定する。	1 やまなしの感想や朗読の仕方について課題をもち、単元の目標を設定する。
本ののみよくを伝えるためには、どのような読みをすればよいのだろうか。	自分が感じたことを朗読で表現するには、どのように読めばよいのだろうか。
<b>2～6 限定された範囲での試行錯誤</b> <input type="radio"/> 大造じいさんと残雪との関係 <input type="radio"/> 物語の魅力のまとめ(本時⑤) <input type="radio"/> 物語の魅力の紹介	<b>2～5 限定された範囲での試行錯誤</b> <input type="radio"/> 宮沢賢治の生き方や考えた <input type="radio"/> 「やまなし」の読み取り(本時⑤)
並行読書	並行読書
7 広い範囲での試行錯誤	6～7 広い範囲での試行錯誤
8 合同発表会を行い、友達や異学年の友達と感想の交流を行う。	

### 5 本 時(第5学年: 5/8, 第6学年: 5/8)

#### (1) 目 標

「ぱっぱっ」「残雪です」等の表現に着目して大造じいさんの心情の変化を読み取り、心に残った文章表現の工夫を、場面の魅力としてまとめることができる。

五月と十二月の谷川の様子を比較したり、表現方法に着目したりしながら、十二月の情景を想像することを通して、十二月の解釈を説明することができる。

#### (2) 指導に当たって

子どもたちは、登場人物の心情について行動描写と心情描写を関連付けて考えることができるが、情景描写に着目して捉えることは難しい。そこで、情景描写の効果をとらえさせるために、「なぜ、残雪とハヤブサの戦いの激しさが伝わるのか」と問うことで、その根拠や理由について話し合わせる。

子どもたちは、十二月の解釈について、五月の情景と比較しながら、「やまなし」の役割をカワセミと比べながら考えることができるが、賢治独特の表現を基に、谷川の様子の変化をとらえることは難しい。そこで、「なぜ『トブン』という音を賢治は選んだのか」と問い、作者の意図について話し合わせる。

(3) 実 際 ○直接指導時の教師の具体的な働きかけ ●間接指導に入る直前の教師の具体的な働きかけ

教師の具体的な働きかけ	主な学習活動 (第5学年)	位置	主な学習活動 (第6学年)	教師の具体的な働きかけ
<p>○ 残雪の行動と、大造じいさんの行動や心情の変化【観点】と関係付けて考えさせるために、「大造じいさんに、どんな変化が生まれた場面か。」と問い、本時の学習課題を設定する。</p> <p>● 課題解決に向けて、見通しをもたせるために、直感を述べさせたり、これまでと異なる大造じいさんの心情描写に着目させたりしながら、考えと理由をボードに書くことを確認する。</p> <p>○ 残雪に対する大造じいさんの心情の変化について叙述を基に話し合わせる。</p> <p>○ 互いの考えを理解しながら話し合うことができるようにするために、同時間接指導の互いの考えを交流する活動において、「どうして〇〇さんは、残雪が仲間を助けようとする行動に着目したのかな。」と聞き手の子どもに問い、お互いの根拠や理由を説明させる。</p> <p>● 物語の魅力や情景描写や行動描写・心理描写とつなげてより深く捉えさせるために、「なぜ、残雪とハヤブサの戦いのはげしさが伝わるのだろうか。」と問い、その根拠や理由について、話し合わせる。</p> <p>○ 学び合いのよさを実感させるために、大造じいさんと残雪の心情や行動について友達と交流する活動を通して、大造じいさんの心情の変化について気付いたことや、情景描写についてより深く読み取れたことを振り返らせ、まとめさせ、物語の魅力について話し合わせる。また、次時の学習に向けての意欲付けを行う。また、「話し方」や「聞き方」などの「学び方」について価値付ける。</p>	<p>1 本時の学習課題を設定する。</p> <p>なぜ大造じいさんは、ただの鳥に対してしているような気がしなかったのだろうか。</p> <p>2 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大造じいさんの心情の変化</li> <li>情景描写から感じる変化</li> </ul> <p>自分の飼っている鳥を助けてくれたからだと思います。</p> <p>3 大造じいさんがただの鳥に対してしているような気がしなかった理由について話し合う。</p> <p>(1) ただの鳥でなくなった理由を考える。</p> <p>自分になついているガンを残雪が助けようとしたことに、感動したからだと思うな。 【観点「大造じいさんの心情」】</p> <p>「仲間を助けようとハヤブサと戦う残雪の行動リーダーとしての姿」には、尊敬を感じる。大造じいさんもきっと残雪に対して、同じような気持ちを抱いたのだと思う。</p> <p>「残雪は、力尽きそうなのに、最後の力を振り絞って、正面からにらみつけた」ということから、残雪に頭領としてのいげんを感じて、ただの鳥とは思えなくなったんだと思うな。</p> <p>残雪の行動や心情が、大造じいさんの気持ちに変化を生み出したんだと思うな。</p> <p>(2) 本時のまとめを行う。</p> <p>残雪の勇敢な行動や仲間意識、頭領として最後までいげんをもとうとする姿に心を打たれたから。</p> <p>4 物語の魅力をもとめる。</p> <p>「残雪はもうじばたさわぎませんでした。」が心に残った。また、戦いの激しさを表す情景描写も心に残った。理由は、仲間を助けるために命をかけて戦った残雪の様子がひしひしと伝わってきたから。</p> <p>5 本時の場面で感じた物語の魅力进行交流する。</p> <p>6 本時の感想进行交流する。</p> <p>〇〇さんの「残雪はじばたさわぎませんでした」から考えた心情を聞いて、残雪の頭領としてのすごさを理解できました。</p> <p>〇〇くんが私の考えがいいと言ってくれたので、発表してうれしかったです。</p>	<p>1 5 3 18 5 5 3 3 2</p>	<p>1 本時の学習課題を設定する。</p> <p>(1) 教材文を読む。</p> <p>(2) 本時の学習課題を設定する。</p> <p>十二月の谷川は、かにたちにとって、どのような世界といえるだろうか。</p> <p>2 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えの根拠となる言葉にサイドラインを引く。</li> <li>考えと理由をノートとボードに書く。</li> </ul> <p>「安心できる世界」だと思います。</p> <p>3 十二月の世界がどのような世界なのか話し合う。</p> <p>やまなしは、カワセミと違い、かにたちも喜んでいいるから、襲われる恐怖のない豊かな世界と言えるのではないかな。【教材】</p> <p>「月光の虹」は、水中に入り込んで、とてもきれいなイメージ。安心して暮らせる感じがするな。【色】</p> <p>トブンという音は、あまりつかわなないけど、ドブンと比べると柔らかい感じがするな。【音】</p> <p>「ぼかぼか」や「サラサラ」などの言葉は、激しさをかんじることはないな。【様子】</p> <p>五月と十二月には生と死という点から大きな違いがあるな。やはり十二月は、あたたかく、柔らかい感じが伝わるな。【五月と十二月のちがひ】</p> <p>十二月は、きれいな水の流れの中で、ゆっくりとした時間が流れている。また、やまなしなどの恵みがあり、幸せな世界だと思うな。</p> <p>十二月は、五月に比べて幸せそうな雰囲気が伝わるな。五月は、鋭い感じがするな。</p> <p>十二月は、生き物にとって、たくさんの恵みがあり、豊かな頃だと言えるな。</p> <p>4 本時のまとめを行う。</p> <p>やまなしが命をあたえてくれたり、水中の様子が落ち着いていたりする「平和な世界」といえる。</p> <p>5 十二月の場面で感じた世界観を交流する。</p> <p>6 本時の感想进行交流する。</p> <p>〇〇さんの文章中の音に着目して十二月のイメージを広げていて、自分の考えを広げる際の参考になりました。</p> <p>〇〇くんの考えは、五月の場面と比べていたので、説得力があると思いました。</p>	<p>● 課題を焦点化させるために、五月と十二月との違い【観点】を想起させ、その違いから十二月の情景について気付いたことや疑問に思ったことを話し合わせる。</p> <p>○ 比喩・色彩・擬声語等の作者の表現の工夫に着目しながら、十二月の世界観を自分なりに解釈できるようにするために、「十二月は五月の世界とどのように違うのだろうか。」と問い、本時の学習課題を設定する。</p> <p>○ それぞれの直感を基に、互いの考え理解しながら話し合うことができるようにするために、同時間接指導の互いの考えを交流する活動において「どうして〇〇さんは『やまなしが十二月を表している。』と、考えたのかな。」と聞き手の子どもに問い、根拠や理由を説明させる。</p> <p>● 「やまなし」が十二月の世界観を表すものとして捉えた理由をより深く捉えさせるためにカワセミと比べながら考えさせたり、「なぜ『トブン』という音を賢治は選んだのか」と問いたりして、十二月のもつイメージを自分なりに解釈できるようにする。</p> <p>○ 学び合いのよさを実感させるために、五月と十二月の世界観の違いや、比喩・色彩・擬声語等の表現の工夫について考えたことを交流する活動を通して、十二月の世界観について気付いたことや、より深く読み取れたことを振り返らせ、次時の学習に向けて、「話し方」や「聞き方」などの「学び方」について価値付けたりする。</p>